

第24期 国立市社会教育委員の会（第13回定例会）会議要旨

令和4年5月24日（火）

[参加者]

- ・ 社会教育委員 日野、砂押、矢野、栗畑、中野、朝比奈、倉持、生島
- ・ くにたち図書館担当者

[事務局] 井田、土方、高橋

生島議長 では、時間になりましたので、第24期国立市社会教育委員の会第13回の定例会を開会いたします。

今日は、石居委員と笹生委員から欠席の連絡をいただいておりますが、定足数には達しておりますので、本日の会議を進めていきたいと思っております。

それでは、本日の配付資料につきまして、事務局からお願いいたします。

事務局 事務局でございます。本日もよろしくお願いいたします。

お配りしている資料を確認いたします。まず、次第が載っている東でございます。次第の下に、資料1と資料2をおつけしてございます。

もう一つの山のほうは、第12回の議事録、こちらは会のほうで修正等なければ、近日中にホームページのほうに掲載したいと思っております。それから、公民館だより、図書室月報、図書館のいんふおめーしょんをおつけしてございます。

それから、脇に、資料番号は振られていないですけれども、今回のヒアリングに当たりまして、図書館さんからは紙ベースの資料はないということですので、念のため社会教育委員の会からヒアリングした項目、以前にもお配りしているものではございますけれども、参考資料としてお配りしてございます。

配付資料は以上でございます。

それから、人事異動がございましたので、御紹介させていただきます。

今まで事務担当していた長谷川が、新学校給食センター開設準備室兼市立学校給食センターのほうに異動となりました。それで、後任として、係におります高橋が担当替えということで、こちらの社会教育委員の会の担当となりますので、よろしくお願いいたします。

事務局 5月から担当させていただいております高橋と申します。よろしくお願いいたします。

事務局 事務局からは以上でございます。

生島議長 ありがとうございます。

本日は資料1、資料2として、本会への要望書が出ております。今後の会議の運営にも関わる内容になっておりますので、先に内容の説明を事務局からお願いいたします。

事務局 第12回の定例会以降、要望書が2件、会宛てに提出がございましたので、資料1、資料2としてお配りしたものでございます。

まず、資料1を御覧ください。宛名は国立市第24期社会教育委員の会議長、生島様でございます。要望者は記載のとおりでございます。要望書の内容は、タイトルだけ読ませていただきますと、「市民を見下さないでください。(要望)」となっております。

もう一つ、資料2としております。こちら宛名は同じく社会教育委員の会の議長で、要望者は記載のとおりでございます。要望書のタイトルを読み上げ

させていただきます。「社会教育や生涯学習は市民の自主的・自発的な活動であり、方向性を持ち込むことはやめてください。」、このようなタイトルとなっております。

説明は以上でございます。

生島議長 この要望書につきましては、事前に皆様へ配付させていただいております。御一読いただいていたかと思えますけれども、御質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、ありがとうございます。

続きまして、次第の2、施設担当者ヒアリングに入っていきたいと思えます。

前回の定例会で、市内の社会教育施設について、指定管理者制度を用いている団体施設ではない、直営の社会教育施設についても、担当者ヒアリングを行っていかうということで決定しまして、これまで持ってきた枠組みで、くにたち中央図書館、国立市公民館の2施設についても、担当者に出席をお願いすることにいたしました。

今日は、その2館のうち、くにたち中央図書館の施設担当の方へのヒアリングを行いたいと思えます。

ヒアリングを始めるに当たりまして、司会進行ですけれども、前回の定例会で、私か倉持副議長のどちらかということだったんですが、倉持副議長をお願いすることにいたしました。そして、もうお一方、栗畑委員をお願いしたいと思えます。よろしく願いいたします。

また、次回の公民館ヒアリングにつきましては、まだ司会を務めておられなかった日野委員と私、生島で担当させていただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

日野委員、よろしいでしょうか。

日野委員 はい。

生島議長 そうしましたら、図書館ヒアリングの司会である倉持副議長と栗畑委員、進行をお願いいたします。ここからはバトンタッチしたいと思えます。

では、中に御案内いただくよう、お願いいたします。

(くにたち図書館担当者 入室)

倉持副議長 それでは、これからくにたち中央図書館のヒアリングを始めさせていただきます。本日、司会を務めます倉持です。よろしく願いします。

栗畑委員 同じく、栗畑です。よろしく願いいたします。

倉持副議長 では、委員の皆さんから一通り、議長から自己紹介をお願いします。

生島議長 はい。国立市社会教育委員の会の議長を務めております、帝京大学に勤めております生島と申します。よろしく願いいたします。

朝比奈委員 朝比奈と申します。どうぞよろしく願いいたします。

中野委員 育成会から来ています、中野と申します。よろしく願いいたします。

矢野委員 公民館運営審議会から来ています、矢野と申します。よろしく願いしま

す。

砂押委員 NHK学園の砂押といいます。どうぞよろしくお願ひいたします。

日野委員 校長会から、国立第三小学校の日野でございます。よろしくお願ひいたします。

倉持副議長 それでは図書館から、自己紹介をお願いします。

図書館担当者① 北市民プラザ図書館の主査をしております。よろしくお願ひします。

図書館担当者② くにたち中央図書館の館長です。本日はよろしくお願ひいたします。

倉持副議長 では、本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

それではヒアリングに入る前に、事前にお伝えしているかと思ひますけれども、本日の趣旨についてお伝えしたいと思ひます。

今期、24期の国立市社会教育委員の会では、研究、調査の一環として、市内の生涯学習関連施設における横断・連携の実態や事例等を把握したいと考えています。そこで、本日御出席いただいたくにたち図書館の担当者の皆様におかれましては、御自身の施設が行っている自主事業等での横断・連携に関する好事例や、事業を進める中で抱えている課題等について、事前にお願ひしているヒアリング項目に沿って、私たち社会教育委員にお話しいただけると幸いです。

お話しいただいた上で、各委員から個別に質問させていただこうと思っております。ヒアリング時間は1時間程度を見込んでおりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、事前にヒアリング項目について4点ほど挙げさせていただいておりますけれども、こちらについて、まずはお聞かせいただければと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

図書館担当者① (1)特徴的な事業ということで、アとして、①図書館ボランティアとの連携がございます。図書館では様々なボランティアが活躍しています。開館当時から継続している活動や、市民からの要望で始まった活動と、多様であります。例えば、書架整理ボランティア、緑化ボランティア、地域資料ボランティア、宅配ボランティア、音訳・点訳ボランティア、くにたちお話の会、絵本の読み聞かせボランティアなどです。

②他自治体図書館との連携があります。国立市内の図書館に所蔵がない資料は、他自治体との連携により相互貸借することで、幅広い資料を市民に提供できています。

③学校との連携。図書館の主催事業として、学校おはなし会が、1986年、昭和61年7月から始まり、現在に至っています。これは三小が始まりだったと思ひます。ブックマラソン事業は2015年、平成27年に開始し、市内小中学校に協力を得て実施しています。小学校2年生の町探検の図書館見学会や、中学2年生の職場体験も、依頼があれば受け入れています。また、くにたち図書館から学校の図書室へ、本の提供、団体貸出しをしています。

④協定利用図書館との連携。国立市民の方は、国分寺市、府中市、立川市、日野市が一番最近で、令和元年5月から協定を結んで始めています、の図書館を利用することができます。市境に居住している市民にとって、隣接市の図書館のほうが通いやすい場合もあり、相互に補完することを目的としています。

⑤NHK学園図書館です。月2回、国立市民が利用できる日を設定して、2015年、平成27年1月から開放しています。特に図書館休館日の火曜日に市民開放していただくことで、市民に隙間のない資料提供ができております。

⑥絵本作家、アンヴィル奈宝子氏講演会とワークショップ。国立駅前のギャラリービブリオさんで、アンヴィル奈宝子氏が『クラクフのりゅう』の原画展を開催するに当たり、図書館主催と同じ作家の講演会とワークショップを同時開催し、チラシなどでPRを連携しました。令和3年9月12日に実施して、20名参加しております。

⑦一橋大学サークル「えんのした」との連携があります。

⑧国立本店。イベントやワークショップの企画、提案を受けております。国立大学町講座や、「蔵書票の魅力を学び、つくる」講座を連携実施しています。

(2) 他の施設・機関等と連携する必要があると感じているものの、まだ連携できていない事業でございます。

アとして、①しょうがいしゃサービス。周知、広報等が足りていないとの指摘を受けたことがあり、しょうがいしゃ支援課に窓口での資料配布等提案したいが、できていない。

②高齢者に対する図書館サービス。地域サービスの拠点となっている地域包括支援センターなどと連携した取組を、今後検討したい。

イ、①しょうがいしゃサービスの周知については、今まで相談いただいた方に利用案内をさせていただいていますが、しょうがいしゃ支援課などと連携した対象者への周知を図りたい。

②高齢者に対する図書館サービスは、他市事例等を調査し、自館で実施できそうなことを検討していきたい。現在実施していない事業であるため、人員も必要であり、慎重な検討が必要である。

(3) 昨今のコロナ禍において、他の施設・機関等との連携事業を行うに当たっての混乱や、逆にコロナ禍を機に新たに始めた連携の取組。

1つ目、学校との連携において、職場体験や図書館見学は日程や人数に制限を加えるなど、形を変えざるを得ませんでした。学校での読み聞かせやお話についても、ボランティアの感染リスクを考え、緊急事態宣言中は中止しました。

2つ目、しょうがいしゃサービスでは、特別養護施設で読み聞かせ等を実施していましたが、互いの感染リスクを考え休止となりました。現在も休止中。宅配ボランティアについても、緊急事態宣言中は活動を休止してもらうなど、感染対策等、慎重に対応する必要がありました。

3つ目、新たに始めた連携の取組で、電子図書館サービス。くにたち図書館では、新型コロナウイルス感染拡大防止の一環として、非来館型サービスの充実を図るため、令和3年2月24日から電子図書館サービスを開始しました。

最後の(4)です。その他、他の施設・機関等と連携するに当たって課題と感じていることです。

1つ目、職務経験において連携事業にあまり携わったことがない職員の人材育成。

2つ目、公立小中学校とは連携しているが、公立高校、大学を含めた私立の学校との連携ができていないのが課題。

以上です。

倉持副議長 ありがとうございます。

ちょっとメモが取り切れなかったもので、情報が多くて早かったのも、確認しながら伺うことになりそうですけれども。

例えば、一番最初の図書館ボランティアの連携として、1つしかメモが取れなかったのも、もう1回、ボランティアの連携は何と何ということを書いてい

ただけるとうれしいです。

図書館担当者① はい。では、一つ一つ、どういうボランティアをしているか、説明させていただきたいと思います。

書架整理ボランティアというのは、棚を整理して本を見やすくするという形になります。課題は、書架の前で作業をしていると、ボランティアなのに図書館員と間違えられて、質問やクレームを受けることがあります。

緑化ボランティアは、中央図書館の前に花壇があるんですけど、常に花が咲いている状態が保たれて、利用者からも評価されています。

地域資料ボランティアは今、中止しているので、宅配ボランティアについては、実際に家まで資料を運んでいくんですが、今、ボランティアの人数が十分確保できてないので、職員が運ぶこともございます。

それから、音訳・点訳ボランティア。視覚にしょうがいのある市民に、資料提供が可能になるよう作業していただくんですが、読み間違いや打ち間違いがないように事前調査が必要であったり、作業量が多く、ボランティアさんの負担は大きいようです。

お話のボランティアは、子供たちに豊かな読書体験が提供できます。技術の取得にはちょっと時間がかかります。

絵本の読み聞かせボランティア。子供たちに読書体験が提供できます。学校、保育園等、様々な活動場所があるため、一定の人数を確保する必要があります。

ボランティアについてはそのぐらいです。

倉持副議長 ありがとうございます。一つ一つのボランティアが、分かりやすく伺えました。

このほか皆さんのほうでも、ここをちょっと聞き逃したとか、もうちょっと説明を、割と全体像を話して下さったので、中身のところがもうちょっと聞きたいなというところもあると思うんですけども。いかがですか。

お願いします、矢野委員。

矢野委員 国立本店との連携なんですけれども、生涯学習振興・推進計画の中で、「国立本店との協働により、推薦図書の展示や講座・講演会等を開催する。」と書いてありますけれども、通常こういう自治体の生涯学習の計画の中で、個別の任意団体を名指しして計画に入れて連携ということを書くのは、非常に珍しいと思うんですね。私は初めて見ました。通常だったら「市民団体との連携」というふうに抽象化すると思うんですね。これは具体的に、どういうきっかけがあって、そうやって重要視して連携していこうとしていたのかということと、具体的に今どういう事業展開をされているのかということをお聞きしたいと思います。

図書館担当者① まず、連携してやらせていただいたのが、「旧高田邸と国立大学町」という、くにたち中央図書館で講演会もやっていただいて、それは2016年、平成28年3月29日に行っております。12名の参加がありました。

その後、「蔵書票の魅力を学び、つくる」講演会を、同じく2016年、平成28年10月30日に行い、15名の参加がありました。

製本講座、「和装本を作ってみよう」というのが2017年、平成29年7月30日、参加は19名。同じく2017年11月4日は、「洋装本を作ってみよう」ということで10名。翌年の2018年、平成30年10月28日に、「ドイツの装丁の本を作ってみよう」ということで、14名の参加。その翌年、また「洋装本を作ってみよう」ということで、2019年、平成31年5月12日

に15名の参加がありました。

これらは、国立本店さんから連携して行いたいという相談が図書館にあり、実施に至ったものとなります。なぜ国立本店だけ名前が出てくるのかということについては、政策経営課のほうに政策提案の応募があったということがきっかけになっており、その点から国立本店さんということになります。

以上です。

倉持副議長 矢野委員、よろしいですか。

矢野委員 要するに、政策経営課に政策提案があって、そこから下りてきたみたいに聞こえたんですが。

図書館担当者① 実際には応募をきっかけに図書館のほうからも国立本店さんに声をかけさせていただいて、できる講座をお互いにお話しさせていただいたという形です。下りてきてそのまま実施したというわけではございません。

倉持副議長 きっかけは団体側からの提案があったけれども、それをきっかけに図書館のほうからも声をかけて、まずはこういうことからやってみましょうみたいな形で、いろんな講座を毎年やっていらっしゃるということなんですね。

図書館担当者① そうです。

矢野委員 はい、分かりました。

倉持副議長 ありがとうございます。
ほかはいかがですか。

砂押委員 砂押です。今回お伺いしているのは、生涯学習振興・推進計画の中に、これを進めていくためには、いろんな施設であったり、地域との連携が大切であるけれども、なかなかそれが進んでないから課題だということが書いてあるものですから、じゃあ、どういうことが課題なのかということをお伺いししようということで、いろいろな施設の方に聞いていますところなんです。

今まで芸小ホールさんとか、いろいろ聞いてきてはいるんですけど、今回図書館のお話で聞いたかったのは、先ほどのボランティアのところで、かなりうまく連携して力になっているという情報を委員の方から伺ったので、そこら辺、深掘りして聞かせてもらえたらと思って、今日、実は楽しみにしてきたところなんですね。

先ほどから、いろいろなボランティアの方がいらっしゃって活動されているというお話ですが、これはそれぞれ、先ほど宅配ボランティアは人が十分確保できていないというお話もありましたけれど、全体で何人ぐらいいらっしゃるんですか。どのぐらいの規模なんですか。

図書館担当者① 重なっている方もいますが、令和2年度の人数で206名です。

砂押委員 そうすると、例えば書架整理で大体10人とか、20人とかのボランティアの方がいらっしゃるとか、そういうイメージですか。

図書館担当者① そうですね。はい。お話のボランティアは60名。
実は宅配ボランティアは、5年前に5人いたんですけど、今1名です。

倉持副議長 ボランティアの仕組みをちょっと教えてもらってもいいですか。登録制だとか、募集をどうしているかとか。どんな感じでやられているか。

砂押委員 ええ、お願いします。

図書館担当者① ボランティアがそのままできる場合もあるんですけど、初心者講習会を開いてやるボランティアが多いです。ただし、書架整理ボランティアは、基本的に募集を出して応募してきた方は、面接をして、お互いに合えばやっていただくということになります。

倉持副議長 例えば、それぞれごとに、音訳・点訳ボランティアの講習会とか、お話しボランティアの講習会、それぞれあって、それを受講して登録みたいな形でやって、登録した方に、今度こういう企画があるので手伝ってくれますかみたいな声かけをして来てもらうみたいな。

図書館担当者① おっしゃるとおりです。ボランティア保険に入っているから、それで登録となります。

倉持副議長 で、お一人で複数のボランティアに登録しておられる方もいらっしゃるということですね。

図書館担当者① おっしゃるとおりです。

倉持副議長 じゃあ、ボランティア全体で集まったりとかする、ボランティアの中で、例えばリーダーとか、長みたいな人がいたりとか、どんな感じの組織化をされているんですか。

図書館担当者② 各団体ごとに、やはり講習が必要のような音訳ですとか読み聞かせは、1つの団体として成り立っているの、代表の方が必ずついています。書架整理ですとか緑化のような講習が必要ないものに関しては、図書館が主管課として運営するという形を取っています。

倉持副議長 じゃあ、専門性が割とあるようなものは、ボランティアで1つのグループというか団体になってもらって、力量を高めてもらいながら活動してもらうという形で、個人的にできるというか個別でやれるような、誰でもできそうなものは、図書館が直接やり取りをしてという感じなんですね。

栗畑委員 質問してよろしいですか。栗畑です。

延べ数で206名のボランティア、重複している方もいるし、実質何人か分かりませんが、年代といいますか、例えば高校生もいらっしゃるのか、高齢の方とか、何かきっかけがあるんだと思うんですね。皆さん、本が好きだとか、こういう特技を持っているということで応募してきていると思うし、前にちらっと図書館いんふおめーしょんか何かで、そういうボランティア募集みたいなもの、時々載ったりしているのは見たことあるんですけども。

私も、市民として多少なりとも図書館を利用させていただいてますので、そういう意味ではボランティアはどういうような、構成と、応募のきっかけみたいな、それを教えていただけますか。

図書館担当者① 男性の方もいることはいらっしゃるんですけど、宅配ボランティアとかいらっしゃるんですけど、女性の方がほとんど多いことと、例えば、30代、40代の頃に始めた方が、お話ボランティアで50年ずっと続けている、90代になっている方もいらっしゃいます。

ただし、最近の傾向では、やはり女性も勤務されている方が多いので、なかなか、ボランティア活動って平日に行くことが多いので、やはりボランティアの高齢化が進んでいるというのも、実情としてはございます。男性も含めて。

砂押委員 あまり新人は入ってきてないという感じですか。

図書館担当者① 新人を確保するために講習会をさせていただくんですが、絵本のボランティアとか音訳講習会なんかは、その講習会に本当に何十人と参加されるんですけど、今、このコロナ禍で二、三年、ボランティアが活躍する場がちょっと少ないということもあって、206人から令和3年度は増えたかというのと、同じぐらいの数で推移しているというのが現状です。

栗畑委員 もう1つ質問してよろしいですか。

40数年前を思い出して、大学生時代、やっぱり大学生っていろいろ、この地区は私立大学がたくさんありますので、教員養成の学校もありますし、それぞれのサークル、幼児教育どうのこうのとかあったりすると思うんですけど、大学生のボランティアというのは結構いらっしゃるんですか。あまりいない？

図書館担当者② いえ、います。一橋大学に古書サークルというところがあるらしく、その「えんのした」というグループ名の学生さんが、年2回程度ですけど、YAコーナーという中高生向けの本のコーナーがあるんですけど、そこに特集を展開してくれています。事例としては、「一日で読めそうな本」とか、結構、一般から見ると難しいんですけど、さすが一橋だなというものを並べてくださったりですか。

栗畑委員 もう1つ、最後に。私、今日の係なので先に質問させていただきます。

先ほど連携の中で、近隣市との図書館利用、本の貸借というお話がありましたが、大学図書館とはそういう連携って難しいとは思いますが、ただ、私が図書館を利用する一番の目的は、読みたい本は自分で買うタイプなので、やっぱり調べたいこと、ちょっと記憶でどうだったかなということ、また振り返るために調べに行くことが多いんですね。その場合、極端なことを言えば、国会図書館へ行くような事態にならないようにしたいんですけど、結構この近隣でも蔵書をたくさん持っている大学さんはありますので、何かそういう、あっせんといいますか、例えば、ここに行ったらその種のものがあるよみたいな情報だけでも得るような連携というか、ざっくり言えば、大学とのまず入り口として、何か連携はないのかなという。

図書館担当者① まず、一橋大学の附属図書館については、確かに200万冊の蔵書があって、100年前の蔵書もあるということです。今はコロナ禍で一橋大学生以外使えない状態ですが、コロナ禍でないときは、国立市民及び研究生は、中に入って閲覧することはできます。貸出しについてはこちらから、できないかと依頼してはいるんですけど、なかなか難しい状況でございます。

それは、ほかのNHK学園さんも、閲覧するだけになります。

倉持副議長 砂押委員、すみません、途中で質問を取っちゃって。さっきのボランテ

ィアの話のところ、何か追加でありますか。

砂押委員 仕組みとしては、初心者講習会を開いて、育成して確保していくということ。でも、募集を出しているのは書架整理ぐらいで、ほかのところは募集しなくても来るんですか。何か講習会開きますよということ、登録してある人が来てくれるという感じなんですか。

図書館担当者① いや、意外に、絵本ボランティアにしる、音訳ボランティアにしる、市報等で募集すると、20名、30名が講習会を受講されます。それがそのまま図書館のボランティアとして残るかどうかは分からないんですけど、実際にやってみて、これはできそうだといいことだと残りますので、そういう意味では、少なくなると広報に出したり、あるいは講習会を開いたりしているのが現実です。

砂押委員 いわゆる市の広報に載せるという感じですよ。

図書館担当者① はい。あと、図書館のほうとか、ホームページ。

砂押委員 その講習会の先生は、職員の方がやるんですか。

図書館担当者② 音訳のほうに関しては外部講師をお願いして、来ていただく。お話しはその団体の方が、代表の方とか、それこそ50年とかのベテランの方がいらっしゃるんで、その方々が講師になります。

図書館担当者① 東京子ども図書館から講師を呼んだりすることもあります。

砂押委員 ということは、かなりそのボランティアの人たちが自主的に動いて、何か教育もしてくれているところがある。

図書館担当者① それはおっしゃるとおりです。

図書館担当者② ただ、音訳とかに関しては、こちらのほうで講師も選定して、日にも設定して、それで募集をかける形になります。

砂押委員 何でもこういうことを聞くかということ、芸小ホールとか、体育館とかいろいろ聞いていて、こういうボランティアを通じた地域の人たちとの連携というのが、いわゆる横展開というか、ほかの団体とか、そういうところにもうまくこういう仕組みを広げることにはできないかと、ちょっと思ったりしているんですけども。どうでしょう。やっぱり、図書館なら何とかできる、人が集まるけど、ほかだと難しそうだとか、そんな感じはありますか。芸小ホールとか。

図書館担当者② ただ、それなりの長期的な時間はかかるかもしれませんが。やはり、技能が必要なものについては、お話しにしても、音訳・点訳にしても図書館開設当時なので、ほぼ50年とかの歴史があるんですね。

ほかのボランティアについても、ほぼ10年ぐらいの年月をかけて、ようやく軌道に乗ったということもありますので、育成とか定着にはそれなりの時間が要るのかなというような印象を受けています。

図書館担当者① 何より、やはりボランティアに参加する方が興味を持っているとい

うことだと思うので、実際にお話会のボランティアの場合には、サークルみたいな形になっていて、1つの団体から6つぐらいサークルみたいな団体になって、毎月または毎週集まって、楽しんでやらせていただいているし、また、学校お話会に行くレベルになるには、かなり経験を積まないといけないんですね。最初は図書館の絵本からデビューとか、そういう形になりますので。やはり長く続けられるというのは、仲間ができてという形が取られるというのが一番なのかなと思います。

日野委員 よろしいでしょうか。ボランティアに関連してなんですけれども。

ボランティアの御説明の最初のところで、市民の方の要望でできたものもあるというふうに伺ったかと思うんですけれども、挙げていただいた中で、市民の要望で始まったものというのがもし分かれば教えていただきたい。あと、いろんなボランティアがあるんですけれども、具体的に活動されている方の声として、こんな声がありますとか、こんなところで学びであったり満足を感じるという、具体的なものがもし分かれば教えていただきたいと思います。

学校ボランティアのほうは、今、すごく経験が要するというお話がありましたけれども、やっけていただいている側としても、本当にお上手で、本や絵本ですとか読んでいただけるだけじゃなくて、雰囲気づくり、ちょっとしたそくをともして、その絵本の世界に子供たちを引き込むような、すごく取組をされていて、大変ありがたいと思っています。

すみません。最後のはちょっと補足ですが。よろしく願いいたします。

図書館担当者② 1つ例を挙げると、宅配ボランティアは、ボランティアをする方から、こういったことをやりたいという御提案を受けて始まったものです。

あとの御質問は、すみません、もう一度。

日野委員 図書館とボランティアの関係づくりというのが、それぞれが立場の違いを明確にしながら、それを理解しつつ、それぞれのできるごととか役割を果たすことがとても重要であるということ認識して、連携させていただいている。

倉持副議長 今言っていたところで、ボランティアをやる御自身のほうの、反応というか、取組の様子というか、もちろんやってくださるというのはあるんだけど、御本人にとって何か得るものだったり、動機だったり、その辺を伺いたいというお話だったかなと思うんですけれど。

図書館担当者② 継続していくに当たって、それぞれのボランティアが月1回ですとか、年2回ですとか、定期的にそのボランティア同士で会合というか、打合せというか、持つ機会がありまして、そういったところで、互いの状況とかを話し合いながら、モチベーションの向上はしているようです。情報交換なども非常に頻繁に、それぞれがしているようです。

本当に皆さん、モチベーションが高くて、コロナ禍でいろいろなものが中止、ボランティア自体、活動を休止していたんですが、書架整理にしても、市民の方と近くなるので、こちらが控えたいということで休みにしていたんですが、ちょっと確認させていただいたら、ぜひやりたいというお声で。もちろん、それは読み聞かせでも同じような形で、こちらとしては本当にありがたい限りなんですけれど。あまり不満の声というよりは、積極的な活動を要望されているような状況です。

倉持副議長 ありがとうございます。

結構ボランティアさん同士のつながりというのもあるし、職員さんと、もちろん長くやっついていらっしゃる方なんかは、もうかなり信頼関係ができていらっしゃるしというところがありますかね。

葉畑委員 よろしいですか。いつものパターンですと、人員とかをお聞きするんですけど。要は、まるでボランティアで成り立っていて、正職員は2人しかいないような感覚を間違えて受けそうなので、取りあえず、くにたち図書館の組織、職員が何名で、嘱託が何名とか、どういう人がいるとかという組織の説明をちょっとしていただけますか。

図書館担当者② 職員の配置は北分館と中央図書館の2館だけでして、全部で11名おります。会計年度、一種の方が15名おまして、二種の方が、5室の分室を含めてトータルで27名おり、このような職員体制で運営しています。

葉畑委員 一種と二種というのは。

図書館担当者② 一種は、図書館司書の資格を持っていることを前提。

葉畑委員 その人たちは非常勤みたいな形ですか。

図書館担当者② そうですね。両方とも非常勤ですが、二種の方については資格は要件としておりません。で、割と短時間の方が多くいます。

一種の方は読書相談とかもしています。割と専門的なことにも対応するような職員です。

倉持副議長 さっき課題のところ、連携に携わったことがない職員さんの育成とかみたいなのは大事なんだけど、そこがポイントだみたいなことをおっしゃっていたと思うんですけど、確かにそこはすごく、いろんなところと、特にボランティアさんとの関係もあると思うんですけど、その辺もう少し詳しく教えていただけますか。

図書館担当者① 中央図書館は開館以来48年、北分館は25年なんですけれど、今、職員で25年勤めている人が1人いるんですけど。中央図書館開館当初は、職員が13名がいて、その後10年、20年の経験者が結構残っていたんですけど、ここのところ、市役所と同じルールで人事異動が行われるということで、司書の資格を持ってない人も含めて、職員が数多く入れ替わってしまっている。

図書館担当者② そうですね。このところ、理由は特段ないとは思いますが、異動が頻繁で、3年未満の職員が半数以上なんです。

葉畑委員 この11名の中でということですか。

図書館担当者② はい。なので、なかなか。仕事を覚えてというのを繰り返しているような状態が、ちょっと長く続いているといいますか、このところちょっとありますので、なかなか業務の継承とかということが難しいかなというのは、印象としてあります。

倉持副議長 それこそ、ボランティアさんとか連携先の団体さんのほうが長く関わっ

ているというような状況が生まれてくるということですよ。

砂押委員 ということは、本来、ボランティアという活動をやっていなかったら、書架の整理とかも全部職員さんがやっているべき仕事だったということなんですか。

図書館担当者① 書架整理についてはおっしゃるとおりで、十進分類法で整理しますので、書架整理以外でもできれば全部、職員及び任用職員で行っています。

砂押委員 他市との連携もあると言いましたけれど、この辺の周り、国分寺の図書館とかそういうところは、やっぱり皆さんボランティアを使っているのか、国立がかなり独自にやっているような形なんですか。

図書館担当者① やはり国立市は結構先駆なんですけど、他市も同じようにボランティアを募集しているんですが、国分寺市さんは「国立市さんは音訳ボランティアを募集するとかなり人数集まるんだけど、こっちは集まらない。お話のボランティアも国立市は60人も集まっているけど、国分寺市ではそんな人数集まらないんだけど」ということで、何でそんなに国立市さんは集まるのか。指定管理になっている市は、ボランティアとの連携がとりづらいこともありますけど、職員同士で、確かに聞かれます。

でも、逆にこちらのほうが国分寺市さんに行って、お話のボランティアの講師をやる、80歳、90歳の先生と言われている方が、ボランティアがいらっしやいますので。

倉持副議長 なるほど。

ほかに御質問ありますでしょうか。

生島議長 じゃあ、よろしいですか。幾つかあるんですけども。

今のボランティアの方々のお話を伺っていると、すごく図書館に関わっていることを楽しんでおられるとか、やりがいを持ってやってくださっているというような感じがすごくあって。なので、先ほど冒頭で、書架整理をしていると職員の人と間違われると、それもまたやりがいとか、誇りなのかなとも思ったりしながら伺っていたんですけども。そのボランティアの方々、自分たちの活動を外に発信するというか、そういう機会があるのかということがまず1つ。

それからもう1つ、こうした連携をする主たる担当といますか、図書館にはほかにも司書業務とか、様々業務があると思うんですけども、そういう外の方とつながる渉外とか、地域連携担当職員というような、何かそういう方が、校務分掌みたいな中であつたりするのか。そこからまず、少しお聞かせいただければと思います。

図書館担当者② 外部への発信については、ボランティアさんは特段なく、私たちがいんふおめーしょんを通じてお伝えするというような部分がありますが、お話については、勉強会が発展した発表会みたいなものがありまして、そういった活動も、図書館の活動とは別に独自でなさっているところもあります。

ボランティア担当につきましては、各業務ごとに担当がついています。例えば、絵本だったりお話は児童サービスの職員が所管しておりまして、宅配、音訳・点訳等はしょうがいしゃサービスの職員が担当しています。そういった形で、業務ごとにボランティアを所管するという形を取っています。

生島議長 ありがとうございます。となると、図書館の中の職員の方たちが、ある意味共通認識として、やはり市民の方々にボランティアとか、または様々な形で関わってもらふことによる意義というか、そういったものは何か共有されたりする機会というか、または何かみんなで確認し合ったりするような機会というのはあったりするのでしょうか。

図書館担当者② 現段階では……。

図書館担当者① ただ、職員会議で月1回は、やはりボランティアの意見とかそういったものを反映できないかという部分で、各担当に発表していただいているので、そこは各図書館員が共有して。

生島議長 で、何かを実現したりとか、声を反映させたいという思いで共有されていると。

図書館担当者① そうですね。はい。

生島議長 ありがとうございます。

もう1点だけ伺えればと思いますけれども。これから連携する必要があるという、(2)のところですね、連携する必要があると感じているけれども、まだできていないこととして、特にしょうがいを持つ人を対象にしたサービスとか、また高齢者の方を対象にしたサービスということが出されていたんですけれども。これに関しては解決策というか、これから検討するに当たって、行政の担当課と相談していくというふうな形で、そういう意味で図書館と行政のセクションとの関係をつくって、何とか実現させていきたいというような御意向かなと思ったんですが。

これと関連して、逆に、ここの課とはできたとか、具体的に何か連携ができたこととか、そういうようなことってありますでしょうか。

図書館担当者① 地域資料サービスで、例えば文教地区指定の頃の講座を開いたり、それについては公民館、郷土文化館、時には生涯学習課も連携して、事業を共催で行わせていただくという形で。例えば、公民館で考えたことを中央図書館を会場として行わせていただいて、周知についてはそういう中で連携してやらせていただいています。これについては継続してやらせていただいています。

生島議長 郷土文化館も、そこに関わったりとかする機会も、今までにあったわけですか。

図書館担当者① そうですね。僕が地域資料を担当していたときは、月1回会議をやっていたときもあったんですけど、今、コロナ禍でそこまではできていない。

生島議長 分かりました。ありがとうございます。

倉持副議長 さっきの(2)のところ、もうちょっと詳しく伺いたいと思っていたんですけど、しょうがいしゃ支援と高齢者支援という部分で、構想というか、伺ったんですけど、もうちょっと補足というか、説明いただけるとうれしいと思います。

図書館担当者① まず、周知の部分については、基本的に図書館に訪ねてきたとき、あるいは電話で尋ねられたときに、しょうがいしゃサービスはどんなサービスがあるかお話ししていたんですけれど、実際には多分、しょうがいしゃの係や管轄している方がたくさんいるし、団体もたくさんいらっしゃるし、やはりこちらから積極的に周知を図りたいという部分もあります。

また、高齢者についても、地域包括という形で他市とは違って直営でやっていますので、介護保険も直営でやっていますので、そういう意味では職員同士で連携しやすいんじゃないかということから、考えられます。

倉持副議長 これまでは、問合せが先方からあって、それに応えて情報提供するという形だけでも、周知とか情報提供、アウトリーチというか、他の部署の方たちのほうに、図書館ではこんなサービスをやっているよというふうにお伝えする機会を積極的につくっていく。というときに、連携が役立つんじゃないかということですね。

図書館担当者① はい。

図書館担当者② 現実的に、ちょっとそういったお叱りを受けたことがあって。分からないんじゃないかということ。図書館に聞いて初めて知るのではなくて、もうちょっと広めてほしいという御要望が実際にありましたので、至らなかったなということ。今後、検討したいと思っています。

倉持副議長 来た相談に応えるだけじゃなくて、積極的に出していくべき、そういうサービスがあるわけだからということですね。そういう要望というか、あれがあったということですね。ありがとうございます。

朝比奈委員、中野委員、何か御質問は。せっかくの機会ですので。どうぞ、中野委員。

中野委員 いろいろなボランティアの方が大勢いらっしゃるということで、とても驚きました。ボランティアの方自身が、図書館で自分自身の学びの場になっているように感じました。ボランティアの方自身の生涯学習の場になっている。そういった見方をすれば、お互いの、利用者とボランティアの方、共に学びの場になっている、それを結びつけている図書館の職員の皆さんがいらっしゃるということで、何かすばらしい仕組みができていると、とっても感動しました。ありがとうございます。

朝比奈委員 先ほど地域包括の話をいただきましたけれども、私も地域包括と若干関係しております、やはり地域包括自体の職員というのはかなり意識が、私自身は強い、高い職員だと思っております、そういった中で、ある意味図書館としても、連携をするとき、組みやすいというとおかしいかもしれませんが、相談しやすいといいますか、対応しやすいというような印象を持ちながら、今伺っていました。

倉持副議長 一緒に何かをやる環境が、条件が整っているんじゃないかということですね。

朝比奈委員 そうですね。

倉持副議長 ありがとうございます。

ほかには、何かありますでしょうか。

私、もうちょっと聞きたいことがあって。さっき連携している事例で、ギャラリー、絵本作家の話があったと思うんですけど、民間のギャラリーですね。

図書館担当者①　そうです。はい。

倉持副議長　この辺の経緯とか、伺えたらと思ったんですが。

あともう1つ、大学のサークルさんとの連携というのは、さっき言っていた一橋大学のサークルさんの話で、年2回ぐらいやってくれるという。それもなかなか、大学生サークルとの連携というのもユニークな取組なんじゃないかと思うので、何か経緯とか、あるいはどんな窓口とやり取りしているかとか、そういう辺りをちょっと詳しく伺えたらと思います。

図書館担当者①　まず、ギャラリービブリオさんは、十松さんという図書館協議会委員の方がやっているのと、その十松さんが、例えば、「絵本のうちわ展」というのをやって、降矢奈々さんとか、妹のアンヴィル奈宝子さんとか、私が行ったら、ちょうどアンヴィル奈宝子さんがいらっしゃったんですね。で、御紹介されて、じゃあ、事業をやってみませんかということで、絵を描くワークショップもできますねということで、絵本の原画展とともに、一緒に連携してできたということがありました。

図書館担当者②　その作家さんも国立市ゆかりの方なので、そういったつながりもありました。

倉持副議長　まさに人的ネットワークの中で生まれたんですね。

図書館担当者①　はい。

図書館担当者②　一橋大のサークルさんにつきましては、一橋祭のときにリサイクル市的なものをやりたいということで、こちらにお声がかかったのが最初かと思います。そこから、何か一緒にできないかというようなことがあって連携が始まったということ聞いております。

その窓口に関しては、中高生ボランティアとかその辺りを、本の選書まで含めて管轄しているYA担当の職員が窓口となって、連携しているような状態です。

倉持副議長　サークルそのものの学生は替わっていくけれども、そのつながりを途切れさせないように、毎年定期的にもやってもらう、年度をまたいでもやってもらうというふうにつかんでいるということですね。

きっかけを逃さず、つながりをつくり続ける職員さんのセンスと努力というのを、本当にこういうところで感じるなということですね。ありがとうございます。

ほかはいかがですか。

生島議長　すみません、再度。

最後のところで触れられた、その他機関と連携するに当たって課題と感じていること、先ほど連携する人材の育成ということもあったのと、今ちょうどサークルとのつながり、一回つかんじやうとそれを継続してできるように、ルー

トができるとやりやすいかと思うんですけれども。先ほどあった、私立の高校とか、市立の大学との連携と考えたとき、何か具体的にこういうことができたらいいのにか、こんなことが既にニーズとして言われているんだけどか、何かそういったことはありますか。

図書館担当者① 例えば桐朋高校とか、NHK学園高校とか、図書委員というのがいると思いますので、その図書委員さんと一緒に事業を考えていくということも考えられたらなと思います。NHK学園さんは、過去の協議会委員で司書の方が、先生の方もいらっしゃるの、連携を取るのも可能かと思います。桐朋高校は、僕が行っていたからそのついでで行くということぐらいしか考えられないんですが。すみません。失礼しました。

倉持副議長 いえいえ。逃さない。全てのコネクションを逃さないという感じですね。国立の中にあるいろんなところの、公私かかわらず、つながって関わっていききたいという思いはやっぱりあって、そういうところにも広げていきたいなということがあると。なるほど。

生島議長 団体とか学校という単位でなく、個人として、若い人たちの利用というのは、貸出しもそうですし、どんな様子ですか。

図書館担当者② 正直なところ、あまり多いとは言えなくてですね。そういうことも含めて連携ができれば、そこからも利用につながるんじゃないかという部分も含めて、課題かなというふうには感じています。

生島議長 なるほど。分かりました。

倉持副議長 はい。よろしいですか、委員の皆さん。大体聞き取れましたでしょうか。どうぞ、矢野委員。

矢野委員 ちょっとずれるかもしれませんが、生涯学習振興・推進計画の事業実績では、講演会等を令和元年度131回行った、2年度はコロナ下なので50回に減ったと記されていました。図書館で講演会等を130回って、すごく多いと思うんですけど、具体的にはどんなことを。

図書館担当者② その数はお話会とかも。

図書館担当者① 絵本の時間、おはなしの時間も含めて、お話の講演会も含めてなんですけど。ただ、大人のためのお話会っていうのも、本当に、中央図書館、北分館、南分館、いろんなところでやるようにしていますので、やはりそういうので回数がかさんでいると。

矢野委員 お話会が。

図書館担当者② 週に2回、2コマずつとかやっているの、それをトータルするとこの数になるんだと思います。

倉持副議長 そういう意味では、コロナの前は本当に、活動の場もたっぷりあったということですね。そこが一回途切れちゃっているというのは、確かに課題になっているんですね。ありがとうございました。

ほかにはいかがですか。よろしいですか。

たくさんお話聞かせていただきまして、ありがとうございました。参考にさせていただこうと思います。

それでは、これで本日の図書館ヒアリングを終了したいと思います。御協力いただきまして、どうもありがとうございました。

(くにたち図書館担当者 退室)

生島議長 では、司会のお二方も、どうもありがとうございました。円滑な司会で、ちょっと資料がなかったこともありましたが、いろいろ聞き出していたんじゃないかと思います。

残りの時間につきましては、本日のヒアリングの内容を少し振り返りたいと思っておりますけれども。

まず、司会のお二方、お疲れさまとともに、ヒアリングを行ってみていかがだったかということ、どうでしょう。先に栗畑委員が質問をたくさんされていたので、先に御発言いただいてもいいかと思うんですけど。

栗畑委員 予想以上に、私も図書館って時々利用するというか、私は北プラザのところにいるものですから、在宅勤務が多くなったとき、ちょっと家の中にばかりいてもしょうがないので、顔を出しに行くんですが、偶然、今日来られた担当者の方が勤めているところなので、それで面識があったのでびっくりしちゃったんですが。よもや来られるとは思いませんでした。それだけに、ちょっと質問しにくくならないように頑張ったつもりです。

ただ、残念なことに、やっぱり紙が欲しいかなと思いました。図書館担当者の方は、原稿を用意していたようですから、できれば後追いでもそれを出していただければいいかなと思います。

感想としては、本当に身近で、実はうちの家内とか娘は、よく図書館を利用して、本を借りる程度なんですけど、ただ、国立の小中でお世話になりましたので、先ほど説明がありましたようなことは、しっかりと教わっていました。これもやっぱり、感想としては、中央図書館で48年ということなんですけど、その歴史が積み上げてきたものかなと。それなりにきちっと、うまく、他市から羨ましがられるくらい成果が出ているのかなと感じました。

また、私も地方出身なんですけど、国立って、昔から物すごくいいイメージを持っている。日常の私の活動の中でも、転勤してくる方々は、本当に国立っていいイメージを持っている。それも長短あると思うんですけど、いい面が出ている施設なのかなというふうに、ちょっと漠然とした感想ですけど、思いました。ということです。

以上です。

生島議長 ありがとうございました。

それではもうお一方、倉持副議長、いかがでしょうか。

倉持副議長 やはりというか、すごく充実した連携というのものもあるんですけど、市民との連携、ボランティアさんですね。学校との連携、NHK学園とか、企業というか民間との連携、大学、学生サークルとか、団体とか、課内の連携、行政内部の連携とか、いろいろな観点の横断・連携を出していただいたので、やっぱり直営の強みも感じつつ、あと、ボランティアさんも50年選手がいるということは、図書館創立時からボランティアさんがいるということなので、やっぱり長い蓄積があってこそその運営、自立した市民の人たちによる活動というこ

とに支えられているという部分も、少し感じることもできたし。

これから連携を考えていくに当たって、大分いろいろな角度の視点をいただけたなというところで、とても勉強になったし、参考になったな、面白かったなというふうに思います。印象的な言葉が幾つもあったような気がしますので、またちょっと議事録を丁寧に読み直したいなと思いました。

ありがとうございました。

生島議長 ありがとうございます。

では、せっかくですので、皆さん方からも一言ずついただければいいなと思うんですけれども。この順で、じゃあ、日野委員、お願いできますでしょうか。

日野委員 本当に印象的なことが幾つかあったなと私も思っておりまして、特にしょうがいしゃ支援、高齢者支援のところで、今までは聞かれたら答えるというスタンスでいたところを、積極的に周知を図りたいと。これ、すごく大事なところだなと思いました。積極的な周知を図る中で、また、じゃあ、これはどうなんだろうかみたいな新たなニーズの掘り起こし、またはニーズをつかめる機会にもなっていくだろうなというところを、すごく感じました。

また、何か一緒にできないかって、一橋大学のサークルさんとのつながりの中で、そういう視点ってすごく大事だなと。今すぐぱっと、これ、やりましょうというのも大事なんですけれども、ほかにも何かできないかというふうな視点も担当の方が持たれていることが、連携の充実、深まりにもつながっていくのかなというところを感じたところでございます。

生島議長 ありがとうございます。

砂押委員、いかがでしょうか。

砂押委員 やはりボランティアの方が非常に大きな役割を果たしているということを知って、やっぱり連携する、自分の施設だけでやるんじゃなくて横のつながりを大事にしていくというのは本当に大事なことなのかなと感じたところです。職員も、だんだんベテランの人が減ってきていて、人事異動で3年未満の人が増えているとか、そういう中で運営がしっかりできているというのは、かなりボランティアの人に依存している部分もあるのかなという気はいたしました。

ただ、それが任せきりというわけではなくて、やっぱり市民の方々がちゃんと図書館を、自分たちで主体的に育てているというか、自分たちが積極的に関わっていい図書館をつくらうとしている人がたくさんいると。ほかの周辺の市と比べても、ボランティアがたくさん来るといってお話もありましたので、やっぱりこの国立市というところで、意識の高い市民の皆さんが積極的に関わるといことは、市の生涯学習活動を進める上で、非常に重要なポイントになっているのではないかと思います。そういう意識の高い市民の皆さんが、周りの市よりも多いのか、直営と指定管理者という違いがあるのか、ちょっと僕もよく分からないんですけど、やっぱり市民の皆さんの積極性をきちんと生かせる地域性というのがあるので、ぜひそこら辺は、図書館だけでなく、ほかの生涯学習活動を進める上で、うまく使っていけばいいのではないかなという気がいたしました。

以上です。

生島議長 ありがとうございます。

矢野委員、いかがでしょうか。

矢野委員 ボランティアというのは楽しくないとできないので、行政が足りないところをボランティアが補うということではないと思うんですが、そういう意味では、そういう楽しさを醸成するような役割を、機関として図書館が行っているんだろうなというふうに、間接的には感じました。やっぱり行政の姿勢によっても随分違いますので。

それと、同じ講習会をやっても、国立は参加者が多いというような、そういう地域特性みたいなものがあるのかなというふうには思いました。

生島議長 ありがとうございます。

中野委員、いかがでしょうか。

中野委員 前回といたしますか、その前に、私、追加のヒアリングは必要ないと最初言ったのを、お話を聞くうちに、ボランティアの方との連携がいっぱいあるということで、じゃあ、お聞きしてみましようというふうに態度を変えちゃったんですけど、それがとてもよかったなということで、社会教育機関がきちっとハブ機能を発揮して、物すごく連携が深まっているなというのを改めて感じました。

また、ボランティアの方がとても長続きしているというのは、やっぱりそこにボランティアの方御自身の深い学びがあり、また、楽しんでいらっしゃるということは、その学びが楽しいんだろうなということを感じました。

以上です。

生島議長 ありがとうございます。

朝比奈委員、いかがでしょうか。

朝比奈委員 私も、ボランティアの方が206名ですか、いらっしゃるということを知って、様々な仕事に携わっていただいているわけですがけれども、これほど多くの人に関わっているというのは、ある意味びっくりしました。

特に話の中で、ボランティアの高齢化の問題とか、危惧している人が多いというような御指摘もありました。やはりボランティアの方が意欲を持って、図書館に参加していこうという考え方だと思いますので、仕事を持ちながらもできるような体制づくりも必要なのかなというふうには感じました。

以上です。

生島議長 ありがとうございます。

皆さんからお話がいっぱいありましたけれども、私もやはり今回は、ボランティアの方々が支えているというだけでなく、ボランティアの方々の生涯学習になり、社会参加の場に図書館がなっているというか、窓口になっているというような感じがしました。

一方で、長く活動して、生きがいになっておられる方もいるとのことですがけれども、高齢の方々が非常に多くなっているというのも、時代的なこともあるかもしれませんが、やっぱり少し若い人との動きというのを何とかつুক্তいていきたいという課題もあったのかなと思います。

そういった中で、先ほど矢野委員からもお話があったんですけども、今まで指定管理者という意味でなく、聞いた3館では、人が足りなくてなかなか連携ができないというような話があったんですが、今回の図書館のお話を伺っていたら、皆さんそれぞれの業務の中にボランティアの方だったり、その業務の中とか業務の延長で、外とつながるというような仕事も含めて考えておられる

んじゃないかということで、連携をするというか、職員のスタンスというか、そういう課題を乗り越えるヒントというのももらえたかなと思います。

そういった意味、人が足りないんじゃないなくて、人が短くて、なかなか知がストックされないというところが、今回は課題として出ていたのかなとも思うんですけれども。直営だからとか、指定管理だからというのではない、やはり人の問題というのが共通してありそうだなというふうにも感じていたところではありました。

様々、これからまた少しゆっくり沈静化をして、考え直すとまたいろいろ出てくるかもしれませんし、今は図書館のお話でふわっとなっていてはいますが、他の館と比較したりとかしていきますと、またいろいろな視点も出てくるかと思しますので、またおいおい振り返っていただければいいなと思っております。

何か最後に、ぜひこれは言っておきたいというようなことがあれば声を発していただきたいんですが、よろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。

では、今日は充実した1時間ヒアリングがおよそできたかなと思いますけれども、次第2のヒアリングにつきましては、この辺りにしたいと思えます。

では続きまして、次第3、事務局からの連絡事項ということで、事務局、お願いいたします。

事務局 事務局の連絡でございますが、次回開催日程について御連絡いたします。次回開催は来月、6月28日火曜日、午後7時から、場所はこちらの第1・第2会議室でございます。内容としましては、担当者ヒアリング、国立市公民館の担当職員をお呼びする形となります。

事務局からの連絡は以上となります。

生島議長 ありがとうございます。

駐車券も忘れずにということで、ありがとうございます。

では、今、お話がありましたとおり、回りの会議は6月28日火曜日、こちらの会議室でということになります。

その他、皆さんから御質問等、ありますでしょうか。

では、これをもちまして本日の会議を終了したいと思います。皆さん、お疲れさまでした。

— 了 —